

2 結果の概要

(1) 全国

① 体力合計点の状況

- ・ 体力合計点については、中学校男子ではコロナ前の水準に戻ったが、小学校男子及び中学校女子では前年度からほぼ横ばい、小学校女子は引き続き低下している。

② 運動習慣等調査の状況

- ・ 1週間の総運動時間が420分以上の割合は、小学校で増加、中学校男子は横ばい、中学校女子は減少した。60分未満の割合は、小学校でほぼ横ばい、中学校は減少した。
- ・ 学習以外のスクリーンタイムが「3時間以上」の割合は、小中学校男女ともに増加した。
- ・ 「運動は好き」と答えた児童生徒は、小中学校男女ともに増加し、中学校男子では過去最高となった。「体育・保健体育は楽しい」と答えた児童生徒は、小中学校男女ともに増加し、小中学校男子は過去最高となった。

(2) 滋賀県

① 体力・運動能力調査の結果

〈体力合計点の状況〉

- ・ 令和5年度に比べて、中学校の男女は上昇したが、小学校の男女は低下した。
- ・ 中学校男子は、本年度も全国平均を上回った。

〈種目別の状況〉

- ・ 小学校男子：令和5年度に比べて、上体起こし、反復横跳び、ソフトボール投げが上昇した。全国平均と比較すると、立ち幅跳びは上回っている。
- ・ 小学校女子：令和5年度に比べて、上体起こし、反復横跳びが上昇した。全国平均と比較すると、すべての種目において下回っている。
- ・ 中学校男子：令和5年度に比べて、反復横跳び、20mシャトルラン、ハンドボール投げが上昇した。全国平均と比較すると、上体起こし、反復横跳び、立ち幅跳びは上回っている。
- ・ 中学校女子：令和5年度に比べて、反復横跳び、50m走、立ち幅跳びが上昇した。全国平均と比較すると、反復横跳び、立ち幅跳びは上回っている。

② 運動習慣等調査の結果

- ・ 1週間の総運動時間は、令和5年度に比べて、小・中学校の男子は増加したが、小・中学校の女子は減少した。
- ・ スクリーンタイムが4時間以上の割合は、令和5年度に比べて、小・中学校ともにやや増加した。
- ・ 「運動やスポーツが好き」と答えた児童生徒の割合は、令和5年度に比べて、中学校の男子は減少したが、小学校の女子は横ばい、小学校の男子と中学校の女子は増加した。
- ・ 「体育が楽しい」と答えた児童生徒の割合は、令和5年度に比べて、小・中学校ともに増加した。

(3) 今後の取組

① 授業改善

- ・ 児童や生徒自身が「わかった」「できた」を実感することで、体育・保健体育の「楽しさ」にふれることができるよう、個に応じた授業展開に向け、授業改善に取り組む。
- ・ 中学生の体力向上をねらいとして、新体力テストの結果等から学校全体や学年の体力状況を把握・分析し、学校ごとの目標達成に向けたプログラムを計画、実施、評価、改善する取組である「PDCA シート」の活用を進める。
- ・ 体育科・保健体育科主任研修会の開催や、外部講師や県教育委員会指導主事の学校訪問を通じて、効果的な授業づくりに関する指導や助言を行う。
- ・ 小学校では、外部講師を招聘して体育科の実技研修会を開催したり、外部講師を派遣してモデル授業を行ったりすることで、体育授業の指導力向上を図る。

② 運動の習慣化

- ・ 小学校では、各校に設置されている「子どもの体力向上委員会」が中心となって「健やかタイムプラン」を計画・実施する。
- ・ 幼小期の安全な運動遊びを園児や児童、保護者、教員に指導・啓発することで、体力向上の土台を築き、積極的な運動意欲を育む。
- ・ 教育情報誌「教育しが」やホームページにおいて、本調査結果を掲載し現状と課題を共有するとともに、家庭でも手軽に取り組める多様な動きを伴った運動の紹介などを行い、家庭や地域での運動遊びの推進に努める。
- ・ 県内の児童が、友だちや個人で取り組む種目の記録をインターネット上で共有できる「湖っ子チャレンジランキング」を実施することで、運動への関心を高める契機とし、運動習慣を形成するとともに、さらなる体力向上を図る。